

「将来を考えるヒント～私たちが歩んできた道」

コロナのため2019年度は中止し、2年ぶりに開催。28期が担当しました。感染防止のため会場は広い体育館に変更。パネリストは全員マスクを着用しました。コロナのため6人全員が集まっての打ち合わせはできませんでしたが、大上段に構えるのではなく自分たちの歩んできた道を話すことで少しでも将来や進路について考えるヒントにしてほしいという思いでテーマを決めました。

<城(前田)佳子：文教大学人間科学部心理学科教授>

一人ひとり自分のペースがある。何事も自分から面白がって一步一步進むようにしよう。人と比べて一喜一憂しない。何歳になっても人は成長する。自分の世界を広げ続けることができる。西高生の皆さんに真剣に聞いていただき感謝。

<鈴木 純：帝人株式会社代表取締役社長CEO>

好きなことを一生懸命する。そのためには我慢してやることもある。それも自分の糧になる。30年後には、どんな仕事をしているかは分からない。将来の選択肢を広く持つこと。あまり決めつけない。社長になることを目標にするのは意味がない。大企業で社長になれるのは半分以上が運。社長になりたいのならば、起業するほうが早い。

<戸谷(渡辺)比呂美：放送通訳・翻訳。NHK 国際研修室主任講師>

西高で過ごす3年間は一生の宝になる。たとえ今はそう思えなくても、人生の土台・支えの一つになる。どんな道に進もうと、明るい未来を信じて自分の使命(calling)を見つけてください。今回、西高生と触れ合い、私自身が刺激を受け、自分を振り返るチャンスにもなった。

<竜崎(劉)崇和：東京都済生会中央病院副院長・腎臓内科部長>

親の勧めた道を選び歩んできた。高校時代はその道を選択するのに葛かつ藤とうがあった。ただし、やり始めればどんな仕事でもやりがいは見いだせるのではないかと思う。医学はまだ未解明の部分が多く、どの道に進もうと必ず興味がわくことの連続だと思うので、自信をもって勧めたい。自分でその道に進んで良かったと思っていることを強調したい。

<泉澤(田中)恭子：朝日生命成人病研究所治験部治験室長>

他人と比べることはない。一生打ち込めるものを見つけられたら成功者です。若者のエネルギーって半端ではない。そのエネルギー自体が自分の人間力を高める経験になると思う。できるだけいろいろなことにチャレンジしてください。今回の機会をいただき、皆さまに感謝。

<柴田吉彦：日本テレビ小鳩文化事業団常務理事>

自分が進んできた道は、希望通りにはいかなかったことも多かったが、いろいろな経験をして、たくさんの人に出会ったことは財産になった。人は、それぞれだと思う。相性もある。予想外のことも起きる。でもどんな時でも「自分はこう思う」ということを大切にしてほしい。そして人と比較しないこと。

